

子ども犠牲 もう二度と

ダンプ事故から50年

ダンプ運転手の居眠り運転が原因

保育園の前、ダンプが追突事故、園児ら50人の列に突っ込む

2016年12月16日

愛知県で1966年12月、保育園児たちの列にダンプが突っ込み園児ら11人が死亡した事故から50年を迎えた15日、慰霊祭や遺族らによる法要が営まれた。

参列者は事故を振り返りながら、子どもが巻き込まれる悲しい交通事故をなくそうと訴えた。

事故は66年12月15日朝、園児たちが通っていたこども園の前を通る国道で起きた。8トンの砂利を積んだダンプが別の車に追突し、2台とも園児ら約50人の列に突っ込み、園児10人、保育士1人が死亡、22人が重軽傷を負った。ダンプの運転手の居眠り運転が原因だった。

この後、遺族らによる法要が近くの寺で営まれ、参列者が園児らを慰める「稚護地蔵尊」に手を合わせた。

事故で6歳だった長女を亡くし遺族の世話役を務めている男性(85)は「小学校に行くのを楽しみにしていた娘のことは忘れられない。

50年たっても子どもの列に車が突っ込む事故はなくなり、知らせを聞く度に悲しくなる」と語った。

警察は、事故が風化しないよう式典に先立ち、現場付近で速度違反などの取り締まりを実施し、交通ルールの徹底を指導した。